

読んでみよう：使い方

はじめに

「ドラえものどこでも日本語」は、それぞれの章のトピックに関連した語彙、文化事項などを学習した後に、読解練習するように構成されています。いうまでもなく、語彙、文法の理解も読解では重要な役割を果たしますが、そのみでテキストの内容が理解されるわけではありません。われわれが読解を行う際には、次のさまざまな知識、能力を駆使して、テキストの内容を理解しています。

- テキスト全体のコンテキストの理解
- テキストの内容に関連した情報の利用
- テキストの構成に関する知識
- テキストで使われる文字に関する知識
- テキストを構成する部分間の論理関係の理解
- テキストに含まれる写真、絵などとテキストの内容に関する理解

また、そのようなさまざまな知識、能力を駆使することにより、よりよく、より早く、より効率的にテキストの理解が行われます。すなわち、読解は単なる解読活動以上の非常に複雑なプロセスであるということです。

「ドラえものどこでも日本語」では、このような総合的な読解能力が獲得できるように、生教材、半生教材を使い、読解活動を構成しています。ページ数の関係で、読解活動の内容が限られていますが、ここでは、それぞれの章の読解の内容をどのように利用して読解能力の獲得を助けることができるかを補足します。

各章の活動例は、「読解材料」「目的」「前活動」「読み活動」「後活動」「書いてみよう」に分かれています。ここでは「書いてみよう」を「後活動」の1つとしていますが、スキットを作ったり、プレゼンテーションを作ったりさまざまなモードで表現することもできるでしょう。大切なことは読解活動を読んだことだけで終わらせないことです。

各章の活動例

第1章 (pp. 21 - 24)

読解材料：電子メール

目的

- 電子メールの構造の理解
- 電子メールに含まれる情報の種類の理解
- ていねいなあいさつ文の読解
- ていねい表現の理解
- あいさつ文の構造の理解
- あいさつ文を書く際のプロトコルの理解

前活動 (p. 21「読む前に考えよう」)

いきなり読み始めるのではなく、読み物についての知識を確認したり、話し合ったりしてから読み始めましょう。

目的

- 一般のあいさつ文にはどのような情報が含まれているかを考えてみる
- インターネットを使ったあいさつ文の意義を考える
- 手紙の書き方の理解を確認する
- 絵文字についての理解を確認する
- 電子メールに含まれる情報を理解する

英文で書かれたあいさつ文や電子メールを実際に見ながら、話し合うとよい。

英語と日本語の絵文字、顔文字を比べて、その類似性と相違について話し合う。

日本語の絵文字、顔文字については「**絵文字**」、「**顔文字**」で検索すると、これらをリストアップしたサイトがたくさん見つかるので、参考にするるとよい。

読みの活動

読みの活動では、すぐに詳細な内容を読むことをさせないために、前活動で書いたリストの内容がテキストの中に入っているかどうかかわかればよい活動から始めている (p. 23, 1)。

次に23ページの2の質問を読ませ、この質問に答えられるレベルの読解活動をする。このレベルでは、まだ一字一句詳細に読む必要がないことを生徒に理解させる。

次に24ページの4の質問を読ませ、この質問に答えられるレベルの読解活動をする。この電子メールの件名「お元気ですか?」

やメールのテキストの最初にある受信者の名前なども内容理解に役立つことを理解させる必要がある。

次に本文の4つの部分の1つを取り上げ、詳しく読み、内容を詳細に理解する活動をしてよい。

次に、生徒がこの電子メールの、送信者と受信者の関係を理解しているかをチェックする。受信者が送信者よりも地位が上であることを確認した上で、この電子メールの中から、受信者に関係した行為、状態などを表現した文を探させ、どのような表現が使われているかを調べさせる (p. 23, 3)。

後活動

後活動としては、前活動で調べた英文のあいさつ文の内容と日本語のあいさつ文の内容にどのような類似点、相違点があるかをディスカッションすることができる。

テキストの最後にある絵文字の意味を考えさせる。いろいろな絵文字を実際にタイプさせてみるのもいい。絵文字が多く入った電子メールの例を読ませ、絵文字がどのような役割をしているかディスカッションすることもできる。

書いてみよう

ここでは、読解活動の後活動として、あいさつ文を書く練習をしている。書く能力を向上させる1つの方法としては、よい例をまねることであることを生徒に理解させ、読解活動のテキストである電子メールの例を参考にさせる。

書く能力を向上させるには、すぐに内容を書き始めるのではなく、アウトラインを作り、構想を練るところから始めさせるとよい。ここでも、下書きメモを書かせている。下書きメモは日本語でも英語でもよい。使いたい表現などを単語レベルで、日本語で書かせておいて、のちに参考にできるようにさせる。

誰に宛てた近況報告なのかを理解させ、ていねいな表現を使うように意識させる。

典型的な四季のあいさつをいくつかここで教えておくのもよい。ほかに手紙のはじめのあいさつ、終わりのあいさつの定型文をいくつか教えておくとよい。

第2章 (pp.40 - 42)

読解材料：不動産広告

- 目的**
- 広告の内容理解
 - 広告に含まれる情報の種類の理解
 - 写真、図とテキストの関係の理解
 - 写真、図の助けを借りての内容理解
 - 見出しと説明の関係を理解
 - 現代の日本の家の構造の理解

前活動 (p. 40「読む前に考えよう」)

- 目的**
- 家に関する語彙の確認
 - 家と風土の関係の理解
 - 家とライフスタイルの関係の理解
 - 日本の家に関する知識の確認
 - 日本の家と自分たちの家の類似点、相違点の確認

30～32ページのアクティビティーを想起させ、日本の家と自分たちの家の類似点、相違点をディスカッションさせる。日本の家であって、アメリカの家にはないもの。アメリカの家であって、日本の家にはないもの。あるいは、両方の家にあるもの。アメリカ以外の出身者がいる場合には、日本の家にもアメリカの家にもないものを話し合いながら、家に関する語彙を復習する。

家の広告にはどんな情報が入っているかを考えさせる。英語で書かれた家の広告を見ながら、どのような情報が入っているかリストを作っておく。また、その家は、42ページの図Aで考えた大切と思われる特徴が入っているかを調べさせる。

読みの活動

まず、広告全体を見せ、どのような情報が入っているかを考えさせる。上の前活動で作ったリストに入っている情報が入っているかどうかを確認させる。それぞれの写真を見て、家の中のどこかを考えさせる。そばにある見出しとの関連を確認する。

いちばん最初の「家族のふれあいが広がる家」の意味を考えさせる。「ふれあい」の意味がわからなくても、下にある説明を

もとの意味を類推させる。

次に家族構成を読ませ、適当な家とはどんな家かを考えさせる。日本人のライフスタイルを理解できているかを確認する。

40 ページいちばん下の絵2つが何のために含まれているかを理解させる。「断熱材」という言葉で、「断」は to shut off, cut off、「熱」は heat、「材」は material という意味であることを理解させ、左半分が「夏」、右半分が「冬」というのはどういう意味か絵をもとに理解させる。右の絵の説明で、「耐震性」の「耐」は to tolerate という意味であることを教え、この語の意味を考えさせる。地震に強い家が必要な理由を考えさせる。

41 ページの右側上の写真に注目させる。どんな部屋か類推させる。「和室」の「和」が Japanese である意味を教え、西洋風の部屋は何というかを思い出させる。

ほかの写真に和室があるかどうかを考えさせる。和室がどのような目的に使えるかを読んで理解させる。

ほかの写真とテキストについても同様に読ませ、内容をだいたい理解させる。宿題にしてもいいし、クラスでグループ活動として、グループごとに残り5つの写真をもとにテキストの内容を理解させ、クラスで発表させてもよい。

これが終わったところで、42 ページの「読んでからやってみよう」2を行う。これも宿題にしてもいいし、グループ活動でクラスで行ってもよい。

後活動

「読んでからやってみよう」の1を行う。m²がどれくらいの広さかを理解させ、日本の家の広さと値段の関係を理解させる。このような家が自分の地域でどれくらいの値段かを考えさせる。前活動で使った家の広告と比べさせてみるのもよい。

42 ページの3を行う。発表の前にワークブックに自分の答えを記入させる。それをもとにどのように発表するか、例を見せる。

例) キッチン→料理が好きで、毎日キッチンを使う。使いやすくて、広いキッチンがほしい。

私にとって、キッチンは大切です。なぜならば、私は料理が好きで、毎日キッチンを使うからです。使いやすくて、広いキッチンがほしいです。

書いてみよう

この章のまとめとなるアクティビティーの1つ。30 ページの絵やこの章で使ったいろいろなレアリアをもとに、日本の家と自分の選んだ家の類似点、相違点を43 ページのような表にまとめさせる。それをもとに次の下書きメモを作らせ、コラムを書かせる。

読むのが同年代の生徒であることを考えさせ、読者がどのようなことに興味があるかを考えて、書かせる。コラムとは新聞の中でどのような目的、機能を持っているかを考えさせる。英語でもいいので、いろいろなコラムの例を見せ、どのように書くかを指導する。

第3章 (pp.57 - 60)

読解材料：地球温暖化フォーラムの案内

- 目的**
- 案内の内容理解
 - 案内に含まれる情報の種類の理解
 - 絵、図とテキストの関係の理解
 - 絵、図の助けを借りての内容理解
 - 案内のフォーマットから内容を理解

前活動 (p. 57「読む前に考えよう」)

- 目的**
- 自然災害についての知識を確認
 - 読解に必要な自然災害の知識を獲得
 - 読解に必要な語彙、文法構造の確認
 - 自然災害の原因を考える
 - 自然災害が人間生活に与える影響を考える
 - 地域と自然災害の関係を考える

57 ページの質問を話し合うほかに、世界中でどのような自然災害が毎年起きるかを示した地図や表などをクラスに持ち込み、世界の自然災害について話し合うのもよい。災害の際の、住む町、学校の避難プランを読んでみるのもよい。天候にかかわる自然災害に関して、現在どのような議論があるかをクラスでまとめてみるのもよい。(上の「チャレンジしてみよう」を、この読解の前活動として使うこともできる)

「読んでみよう」の右横のマンガをディスカッションの題材として使える。例えば、このマンガで何が起きているか、このようなことが生徒の住んでいるところでも起こるか、「ゴーオー」「ビュウ」は何の音か、この後、どのようなことが起こるか、などを生徒に聞いたり、グループでディスカッションさせることもできる。

もし、このような自然災害に関するフォーラムを開くとしたら、どんな人をパネリストにし、どんなことについて話し合わせるかを考えさせる。そのようなフォーラムの案内には、どのような情報を入れるかのリストを作らせる。

読みの活動

まず 58 ページの案内を見せ、どのような部分に分けられるか、全体的な印象からのみ言わせる (日本語を詳しく読む必要はない)。上の前活動で作ったリストにあげた内容が入っているか、入っているとすれば、どの部分にあるかを考えさせる。

案内の上の 2 行に注目させ、どのようなフォーラムであるかを考えさせる。「地球温暖化」とその下の顔のついた地球の絵との関係を考えさせる (「チャレンジしてみよう」を先に行っている場合には、難しい質問ではない)。

次に顔のついている地球のあたりに注意を向けさせる。地球の左と右に矢印があるのはなぜかを考える。原因と結果の関係が理解できていることを確認。「なぜ」と「どうなる？」がわかれば問題がないはずである。二酸化炭素の意味が理解できない場合には、ここで教える。円グラフがどのような意味を持っているかを考えさせる。「どうなる？」の部分の絵が何を表しているかを考えさせる。これが上の項目の何番目に当たるかを考えさせる。

次に□で囲まれた 7 つの問題を簡単に読ませ、先ほどの「どうなる？」の項目のどれにそれぞれ関係しているかを考えさせる。完全に意味がわかる必要はないことを強調する。

□の下にある 2 行は、何に関係したことかを考えさせる。

最後にグレーの部分に注意を向けさせ、このフォーラムの日時、場所を理解させる。参加するためにはどのようにすべきかを考えさせる。住所が書いてあるのはなぜか、それがフォーラムの場所なのかを考えさせる。

後活動

以上をした後、「読んでからやってみよう」の 59 ページの 1 を宿題として提出する。上の読み活動をしておくと、2 もできるし、60 ページの 3 の話し合いの準備もできる。

60 ページ、3 の話し合いはクラスで行う。

このフォーラムに参加したいという設定で、主催者の「環境を考える会」に応募の手紙を書かせる。また、意見交換会で意見を発表したいむねを書かせ、どのような意見を持っているか書かせるのもよい。この活動の前には、このような応募の手紙のフォーマットを教える必要がある。

この読解活動の後活動の 1 つとして、「書いてみよう」を行う。これもまず下書きメモを書かせる。災害 1 つを選び、それがいつ、どこで起こり、どのような結果をもたらしたか、なぜその災害が起こったか、災害の特徴は何かをまとめて書けるようにさせる。

フォーラムを自分たちで企画させ、読解教材のようなポスターを作らせるのもよい。

第 4 章 (pp.74 - 76)

読解材料：大学の学園祭のパフレット

- 目的**
- 学園祭のパフレットにはどんな情報が含まれるか理解する
 - パフレットはどのような構造を持っているかを理解する
 - 日本の大学の学園祭の特徴を理解する

前活動 (p. 74 「読む前に考えよう」)

- 目的**
- 学校行事の内容を理解する
 - 学校行事の目的を理解する

74 ページの質問についての話し合いのほか、生徒が学校の行事にどのようにかかわっているか、季節と関係のある行事はあるかなどを話し合わせる。自分の学校のクラブ活動のパンフレットなどがあったら、それを持ってこさせ、クラブ活動は年間を通してどのような活動をするか、学校行事にどのように参加しているか、クラブ活動を維持するためにどのように資金集めをしているかを話し合うのもよい。

日本の高校の行事については、「高校、行事、学校行事」などで検索すると、参考記事を見ることができる。

読み活動

75 ページのテキストを見せ、右上のいちばん上の文字がどんな意味かを確認する。

次に大きな太文字で書かれた3つの見出し、「展示 エンターテイメント」「講演」「食事・カフェ」がどんな目的を持つかを考えさせる。

食事・カフェの5番から11番の説明のいちばん最後に()があることに注目させる。(7番、9番には括弧がないが、吹奏楽部の隣、野球部の隣に注目させる)5番から11番がどんな場所で、どのクラブが運営しているか、次のような表を使って書かせる。

番号	どんな食事場所、カフェ?	運営クラブ
5	焼きそば	落語研究会
6		
7		
8		
9		
10		
11		

それがどんな意味を持つかを考えさせる。「読んでからやってみよう」の1を行う(カフェドラに関しては、マンガの部分がわかっていないとできないので注意)。

次に「展示 エンターテイメント」の部分に注目させ、次のような表を作らせる。

番号	展示 エンターテイメント	運営クラブ
1	写真の展示	写真部
2		
3		
4		

次に「講演」の部分に注目させ、次の表を完成させる。

シンポジウムのタイトル	
シンポジウムの主催者	
場所	
時間	
出席方法	
注意すべきこと	

以上の活動が終わったところで、76 ページの2を行う。

後活動

76 ページの3を行う。実際に意見の発表を行う前に、アウトラインを作り、自分の意見をまとめ、書かせておくほうがよい。

意見を言う時には、アウトラインを見てもよいことにする。

グループ活動として、それぞれのグループで、学園祭でどのような模擬店、展示、エンターテイメントをするか決めさせる。それぞれのグループに日本語で宣伝文を作らせる。それぞれのグループから代表を出し、どこに配置するか 76 ページの 1 のような図の上で決定させる。それをもとに 75 ページのようなパンフレットを作らせる。

書いてみよう

読解活動の後活動の 1 つとして、自分の所属するクラブを紹介するポスターを作らせる。

まず、下書きメモを完成させ、その情報をどのように配置するか、どのようなイラスト、写真などを使うかを考えさせ、ポスターを作らせる。

第 5 章 (pp.92 - 94)

読解材料：12 月の歳時記

- 目的**
- 新聞の記事を読み、だいたいの内容を理解する
 - 背景知識を使って内容を理解する
 - コンテキストを利用して内容を理解する
 - 辞書などのリソースを使って、読解を行う
 - 日本の年末・年始の行事を理解する
 - 干支について理解する

前活動 (p. 40「読む前に考えよう」)

- 目的**
- 日本の年末・年始の行事に関する背景知識を得る
 - 自分の国の年末・年始の行事と比較する
 - 干支についての背景知識を得る
 - 干支が日本でどのような役を果たしているかを理解する

92 ページの質問について話し合うほか、日本の祝祭日とアメリカの祝祭日を比較して、どのような類似点、相違点があるか、クリスマスの意義は日米で同じか、異なるか、ホロスコープ（星座占い）を信じるか、血液で人間の性格がわかるかなどを話し合う。

読み活動

まず、いちばん最初に出てくる「歳時記」の意味を考えさせる。3 つの漢字は既出のため、ある程度の意味は類推できると思われる。意味がわかったら、この記事は 12 月の歳時記であることを指摘し、ざっとこの記事を読んで、下の表の (1) を埋めさせる。(1) を埋めることができればいいレベルの読みであることを強調し、最初から詳細な情報を得る必要はないことを言う。キーワードは「 」に入っていることをヒントとして与え、「 」の役割に関して認識を深めるのもよい。

日付	何の日 (1)	何をする日 (2)
12/8		
12/13		
12/17-19		
12/22		
12/24		
12/25		
12/28		
12/31		

次に (1) のそれぞれが、何をする日かを読ませ、(2) に書き込みさせる。ここでも、何をする日かわかるだけでいいことを強調する。これはグループ・アクティビティー、ペア・アクティビティーで日付をいくつか決めて、行ってもいい。生徒には難しいと思われる場合には、選択肢をあらかじめ英語で作っておいて、日付と結びつけさせるマッチングの活動にしてもよい。

次にこの歳時記の中で、次のようなことは何日にしたらよいとすすめているかを探させる。

Things to do	Dates
Buy new calendars	
Start writing New Year's cards	
Start sending year-end gifts	
Purify the body by taking bath	
Start preparing for foods for New Year	
Go to temples or shrines to pray	

以上をしておく、94 ページの「読んでからやってみよう」の1、2、3が問題なくできる。

最後に、読解材料の最終段落に注目させる。前活動で話し合った干支について思い出させる。2009 年は何どしであるかを探させる。「年男・年女」とは何かを考えさせる。生まれた年に注目させる。元号と西暦の関係について教えておく必要があるかもしれない。丑年生まれの人性格について書かれている部分を辞書、電子辞書、オンライン辞書を使わせて、詳細に読ませる。その後、94 ページの4を行う。

インターネットのウェブサイトなどが参考になる。「**占い**、**性格**、**性格占い**」で検索するとよい。

後活動

94 ページの5を行う。これをするためには、前活動をしっかり行っておく必要がある。また、94 ページの4に関連させて行うとうまくいく。

「**占い**」「**占星術**」などで検索したサイトが参考になる。

ここでは12月の歳時記を読んだが、「歳時記」で検索したサイトのほかの月の歳時記を読ませてもよい。グループ活動として、グループごとに異なる月を担当させ、それぞれの月の行事を調べて、発表させたり、それぞれの月の簡単な歳時記を書かせるのもよい。

お正月が近い時には、クラスで年賀状を書いたり、年賀状コンテストをすることもできる。

これには「**年賀状**、**年賀状の書き方**」で検索したサイトを参考にさせるとよい。

第6章 (pp.111-114)

読解材料：スポーツクラブの広告

- 目的**
- 広告に含まれる情報の理解
 - 広告の構造、フォーマットの理解
 - 目的を持って広告を読む
 - 広告の目的、機能の理解
 - 広告を読んで、決定をくだす

前活動 (p. 111 「読む前に考えよう」)

- 目的**
- 運動についての背景知識を得る
 - スポーツクラブについての背景知識を得る

111 ページの質問についての話し合いのほか、アメリカのスポーツクラブ、フィットネスクラブの案内を持ってきて、どのような情報が入っているかリストを作らせる。

スポーツクラブ、フィットネスクラブにはどのような施設、設備があるかを調べさせる。

スポーツクラブ、フィットネスクラブに入会するためには、どんな手続きが必要で、どれくらいお金が必要かを調べさせる。また、入会のさまざまなオプションにより、どのように特典が違うかも調べさせる。

スポーツクラブにはどのようなプログラム、クラスがあるかを探し、それぞれのプログラム、クラスの目的、対象とする人

などを考えさせる。

読み活動

まず112ページの広告を見せ、このスポーツクラブの名前を探させる。どのような目的の広告かを探させる（いちばん上の大きな文字に注目させる）。次になぜ「秋のキャンペーン」なのかを次の3行を読ませ、理解させる。

次にこの広告に含まれる5枚の写真がそれぞれ何をしているところかを考えさせ、・の横にある言葉との関係を理解させる。また、この5つのプログラムと《おすすめプログラム》の関係を理解させる。

まず、ステップエクササイズの部分だけに注目させる。

ステップエクササイズについて知っている背景知識をまず引き出す。その背景知識に関係した内容が、説明文の中に含まれているかどうかを探させる。初めての人にもいい理由は何かを理解させる（ヒント：シンプル）。効果は何かを考えさせる（「筋肉」はmuscleという意味です。「筋力アップ」はどんな意味だと思いますか、のようなテクニックを使う）。最後の（ ）内の情報は何かを言わせる。

次に生徒をグループに分け、残りの4つのプログラムに関して、どのようなことをするのか、どのような人にすすめられるか、プログラムの時間はいつかを探させる。すべての情報が入っていない場合もあることをあらかじめ言っておく。それぞれ探し出した情報を発表させ、4つの部分の内容を確認する。

この後、113ページの1を行う。

次に113ページの2を行う。まず佐藤めぐみの例をクラス全体で考えてみる。理由を言うわけもこの時にする。残りは宿題にしてもいいし、クラスでグループ別にしてみるのもよい。終わったら必ず答えを確認し、フィードバックを出す。

次に113ページの3を行う。2にならい、理由を言えるようにする。

ここにあげられている以外のプログラムがあるかどうかを知りたい時には、どうすべきかを広告の中から探させる。どのように連絡するか、連絡できる時間は何時かを探させる。

最後に、前活動で作ったリストにある情報、ない情報を確認させる。

後活動

114ページの4を行う。

前の章の歳時記の練習で探した情報を利用させる。

健康のためにいいこと、悪いことを考えさせ、日本語でリストを作らせる。その中で自分が実行していることをチェックさせる。自分の日常生活が健康的であるかどうかを確認させる。もっと健康的な生活を送るために、今後何をしなければならないかを考えさせる。

健康と食事の関係について考えさせる。日本食が健康によいと言われるのはなぜかを考えさせる。

114 - 115ページの「書いてみよう」を行う。まず、下書きのためのアウトラインを作り、それに基づいて書かせる。

第7章 (pp.130- 132)

読解材料：テキストチャット

- 目的**
- テキストチャットの連続的な会話を読んで、内容をす早く理解する
 - チャットで使うおもな絵文字を理解する
 - 日本のごみ収集の方法について理解する

前活動 (p. 130「読む前に考えよう」)

- 目的**
- チャットについての背景知識を引き出す
 - 日本のごみ収集の方法の背景知識を引き出す

テキストチャットについては、130ページの質問を話し合い、生徒の背景知識を確認しておく。

この章のこれまでの活動は、この読解活動の前活動となっている。日本のごみ収集についての活動の内容をここでまとめておき、生徒の背景知識を確認しておくのもよい。

読み活動

テキストチャットの際には、相手からのテキストが出てきて、それをすぐに読み、内容を理解し、返事を書くことが要求される。この読解材料はそれを前提に練習を行う必要がある。

まず日本に留学中のトムくんと、アメリカに留学中の日本人の純がチャット中であるというコンテキストをはっきりと理解させる。また、トムくんが日本のごみ収集に驚いていることが前提になっていることも理解させる。

最初から順番に読ませ、□の1から5にどのような内容が入っているかを類推させ、下のような表にメモを書かせる。前後関係から類推するように言う。1番目を一緒にしてモデルを見せるのもよい。

番号	内容
1	
2	
3	
4	
5	

131ページの「読んでからやってみよう」の1を行う。自分が予想した内容とワークブックの内容が一致したかどうかを話し合う。ワークブックが提示している以外にもテキストチャットがうまく流れている場合もあるので、生徒の答えが必ずしも間違っていないことを確認する。

テキストチャットの中で次の点に関して、どのような会話がなされていたかを話し合う。

- 花見
- ごみ捨て
- びんと缶
- リサイクル

ここで132ページの2を行う。

テキストチャットで使われている絵文字を探させる。132ページの3を行い、それぞれがどのような意味を持っているかを考えさせる。このテキストチャットで使われている絵文字と、アメリカの絵文字の違いについて議論させる。

後活動

日本に姉妹校があるようなら、実際に生徒同士に日本語でテキストチャットをさせてみる。

133ページの「書いてみよう」をグループ活動として行う。ポスターを作る前にテーマを1つ選ばせ、グループ内で、ポスターにどのような内容、メッセージを入れるかブレインストーミングさせる。ポスターの評価のためのルーブリックを先に与えておくとよい。

Rubrics

第8章 (pp.149- 150)

読解材料：新聞の投書欄

- 目的**
- 縦書きの日本語を読む
 - 意見の述べ方を理解する
 - 新聞の投書欄の構成を理解する
 - コンテキストを利用して意味を理解する

前活動 (p. 149 「読む前に考えよう」)

- 目的**
- 投書欄に関する背景知識を確認する
 - コンピューターと社会の関係を考えさせる

英語で書かれた地域の新聞を持ってきて、どこに投書欄があるかを調べさせ、どのような意見が載っているかを確認させる。149ページの「読む前に考えよう」を行う。

コンピューターについて便利な点と不便な点を考えさせ、リストを作らせる。

読む活動

149ページの新聞の投書欄を見せ、どのような構成になっているか話し合う。真ん中の今週の話題が何なのかを確認する。右上に「いいえ」、左側の上に「はい」があるのはなぜかを考えさせる。

まず右上の1番の投書に注目させる。投書のタイトルを確認し、投書した人の名前、年齢、職業、居住地を理解させる。この人がなぜコンピューターは問題だと言っているのかを理解させる。この投書に賛成か反対かを言わせる。

右下の2番の投書は誰が書いたものかを読ませ、その人が指摘している問題点を探させる。この投書に賛成か反対かを考えさせる。

次に左上の3番の投書をクラスで一緒に読む。書いた人が誰であるか理解させ、賛成理由を理解させる。この投書に賛成か反対かを言わせる。

次に左下の4番をそれぞれ読ませ、賛成理由を理解させる。「ボケ防止」の「防止」は prevention の意味であるが、「ボケ」とは何かを考えさせる。投書した人の年齢を参考にさせる。この投書に賛成か反対かを考えさせる。

この4つの投書を通して、賛成か反対かの意見はどこでわかるかを考えさせる。投書の最初にコンピューターに関する自分の立場を明らかにしてから、議論を進めているかどうかを考えさせる。自分の置かれた状況、自分が経験したことを述べて、そこからコンピューターの便利さに関する意見を導き出しているかを考えさせる。

150ページの「読んでからやってみよう」の1を行う。

続いて、2を行う。4つのすべてを行う時間がない場合は、このうち、1つか2つを選び、発表させる。

前活動で作ったリストにあげた点が出てきているかどうかを確認する。

今、コンピューターがまったくないとしたら、どのようなよい点があるか、どのような問題が起こるかを話し合う。その後、150ページの3の指示に従って、ディベートを行う。

後活動

コンピューターが便利か否かに関して、自分で投書を書いてみる。この読解テキストにならって、自分の経験をまず述べ、そこから結論を引き出すように書かせる。

また、次のような話題について、投書を書かせるのもよい。

- アメリカはもっとごみのリサイクルを行うべきか。
- アメリカは地球温暖化防止のため、もっと努力すべきか。

これらの話題について、発表したり、ディベートするのもよい。

1つの意見ではなく、賛成意見と反対意見の両方を併記した記事を書く練習をするのもよい。

第9章 (pp.166-168)

読解材料：求人広告

- 目的**
- 求人広告に含まれる情報を理解する
 - 求人広告の構成について理解する
 - 求人広告での言語の使用について理解する
 - 求人広告を読んで、意思決定をする

前活動 (p. 166 「読む前に考えよう」)

- 目的**
- 学生のアルバイトについての背景知識を確認する
 - アルバイトの探し方についての背景知識を確認する

英語で書かれた地域の求人情報誌、新聞の求人欄をクラスに持ち込み、166ページの「読む前に考えよう」の質問について話し合う。

日本の高校生のアルバイトに関する一般的情報は「高校生」、「アルバイト」で検索したサイトが役に立つ。

日本ではアルバイトを禁止している高校があるが、なぜ高校生のアルバイトを禁止しているのか話し合ってもよい。それに賛成か反対か話し合ってもよい。

「高校生 アルバイト 是非」で検索したサイトが参考になる。

読み活動

167ページの読解材料を見せ、これが何かを考えさせる。

5つの広告がそれぞれどんな仕事か、どのような場所かを探させる。詳細を読む必要はないことを強調。下のような表にまとめさせてもよい。

	仕事	場所
1	スイミング・インストラクター	インターナショナル・スイミングスクール
2		
3		
4		
5		

次に左上の1番の広告に注目させる。この仕事の資格は何かを探させる。

アルバイトの部分に注目させる。時給が2種類、950円～1500円と850円とがあるのはなぜか考えさせる。「経験」がexperienceであることを教え、「未経験者」の意味を類推させる。さらに時給が950円～1500円と幅があるのはなぜか、一方、850円のほうはそのような幅がないのはなぜか考えさせる。

アルバイトの下の正社員に注目させる。「社員」がcompany employeeであることを指摘し、「正社員」の意味を考えさせる。アルバイトと対比させて考えさせる。「月給」は何か、「給」の漢字の意味を類推させる。月給にも幅があるのはなぜか考えさせる。どのような人が高い給料を得るのかを考えさせる。

最後に、この仕事に興味がある場合には、どのようにしたらいいかを言わせる。電話番号の左の「問い合わせ」はどのような意味かを類推させる。「質問」の「問」が使われていることを指摘する。

次にペア活動として、3番の広告を読ませる。読む前に、次のような質問を与えておく。

- 具体的な仕事は何か
- 高校生でも働けるか
- 給料はいくらか
- 「待遇」という言葉の意味は何だと思うか、「昇給」の意味は何か
- OKとあるのは、何か
- このコンビニエンスストアは具体的にどこにあるか
- このアルバイトをしたい時にはどうするか
- 何がNo.1と言っているか

それぞれのペアが答えを出したところで、クラス全体で話し合い、正しい答を読み取ったかを確認する。漢字が読めなくても、コンテキストから意味が類推できることを確認。「従業員満足度 No. 1」がわからない生徒が多いかと思うが、これがこの広告の中で重要度が高い情報かどうかを話し合う。すべてをわかる必要がないことを強調する。

次に5番の広告を読ませる。宿題にしてもよい。
読む前に、次の内容を探し出すようにしておく。

- 働く場所はどこか
- 何に便利と言っているか
- 給料はいくらか
- どのようないい点があるか
- このアルバイトをしたい時にはどのようにしたらいいか

社保有り、随時 の意味をあらかじめ与えておいてもよい。

次に右上の2番の求人広告に注意を向ける。
読む前に、次のような質問を与えておく。

- 高校生もできるアルバイトか
- 資格は必要か
- 昇給の条件は何か
- 「早番」「遅番」の意味は何か
- 交通費は出るか
- 何を貸してくれるか

クラス全体で理解を確認する。

- 4番の求人広告は宿題とする。
宿題として出す前に、次のような質問を与えておく。
- 時給は全員850円か。違うとすると、どんな人が高くなると思うか
 - 時給が1070円に上がるのはなぜか
 - 経験がない人でも応募できるか
 - 週末しか働けない人でも応募できるか
 - 交通費は出るか
 - 何を貸してくれるか
 - 応募したい時には、どのようにすればいいか。誰に連絡すればいいか

宿題として活動を行った後、クラス全体で答を確認し、フィードバックを与える。

この後、168ページの「読んでからやってみよう」の1と2を行う。2はクラスで発表させる。

後活動

168ページの「読んでからやってみよう」の3を行う。

169ページの「書いてみよう」を行う。

自分が理想とするアルバイトの求人広告を作らせる。167ページの広告を参考にする。動詞はあまり使われておらず、体言止め、名詞が多いことを強調する。

第10章 (pp.184-186)

読解材料：求人広告

- 目的**
- ホームページに含まれる情報を理解する
 - 日記を読む

前活動 (p. 166 「読む前に考えよう」)

目的 ● 日記、メモリーブック、オンラインダイアリー、ブログ、ソーシャルネットワークに関する背景知識を確認する

184 ページの「読む前に考えよう」の質問を話し合うほか、実際にブログを持っている生徒のブログを見て、どのような情報を発信しているか、どのようなコメントが書き込まれているかを見る。また、ソーシャルネットワークに参加している生徒に、どのように使っているかを説明させる。

日本の日記サイトなどを見て、参加者はどのようなことを書いているか、アメリカの日記サイトとの類似点、相違点を発見させる。

読む活動

185 ページのトムくんのホームページを見る。トムくんの作ったオンラインのフォトアルバムであることを確認。まず最初にホームページのいちばん最初の4行を読み、このホームページの目的を理解させる。

次に4枚の写真があることに注目させ、それぞれの写真が何をしているところかを確認（本書の前の章で出てきたシーンなので、生徒も思い出せるはず）。

まず左上の写真に注目させる。その右のトムくんの感想を読ませ、写真についてトムくんがどのようなことを書いているか理解させる。写真の内容を離れて、トムくんは何を言っているかを読み取らせる。「『タケコプター』が出てきますが、トムくんは何と言っていますか」のような質問をする。

クラスをグループに分け、残り3枚の写真について、トムくんがそれぞれの写真にどんなコメントを加えているかを読み取らせる。すべての内容は前の章に出ているので、前の章も参考にするように言う。グループごとにクラスに発表させ、答えを確認、ほかのグループも同じ情報を探することができるかを必ず確認しておく。

次に186 ページの「読んでからやってみよう」の1を行う。

次に「読んでからやってみよう」の2を行う。どのような感想を書いたか、グループの中で確認させ、誰の感想がいちばんよい感想かを考えさせる。

後活動

Tsunagaaru で日本の高校生が作ったブログを探し、そこにコメントを残させる。生徒に自由にブログを探させるより、教師があらかじめ選んでおき、そのブログにコメントを残すように指示したほうがよい。

<http://www.tsunagaaru.com/>

もし自分が、日本語学習についてのブログ、ホームページを作るとしたら、どのような情報を発信するかを話し合わせる。これをもとにクラスのブログを作るのもよい。

186 ページの「読んでからやってみよう」の3を行う。1年の学習活動のまとめの活動として行うこともできる。

187 ページの「書いてみよう」を行う。あらかじめ、ポスター、ウェブページの評価のルーブリックを与えておく。

Rubrics